

PLAN NEWS

特集

チャイルドに 会ってきました!

ガールズ・プロジェクト
「女の子のための
居場所・相談」
プロジェクト
(日本)

グローバル・プロジェクト
子どもたちを
笑顔にする
給食ボランティア
(カンボジア)





「子どもの人数に見合うだけの施設や物品がないことなど、現場が抱える課題も目の当たりにしました」

これまで手紙のやり取りは何度もしてきましたが、この一回の交流で、私たちの気持ちのつながりが何倍にも強くなったように感じます。

現地事務所では、職員の方、一人ひとりに挨拶をさせていただきました。私がチャイルドに送る手紙を翻訳して下さっている職員の方にも会えて、感慨深かったです。支援に関わる職員の皆さんの顔を見ることが、現地の活動がよりリアルに感じられるようになりました。

たくさん元気をもらえた

プランの支援により建てられた学校を訪問したときには、どのような環境でどのような教育が行われているのか、その一端を自分の目で見る

ことができました。特に、小さな子どもたちが歌を通して英語を学んでいる姿や、少し上の学年の子どもたちが私が私に「Hello!」「See you later!」と英語で声をかけてくれる姿には感激しました。こうした光景を目にする、自分の支援が子どもたちの教育に役立っていることを実感しますね。国や人種などを超えて、自分の寄付が形を変えて届けられていることがとても嬉しく感じられました。

視察中、外国人の訪問が珍しいためか、驚くほど多くの子どもたちが私の周りに集まってきました。なかには息をのむような驚きを示す子どももいてちょっと心配になりましたが、こういう「異星人」のような人間との接触が、世界に目をむけるきっかけになればよいと思います。

チャイルドは、「私のスポンサーはいつ来るのかな」と、心から待ち望んでいると聞きました。ですから機会があったらぜひコミュニケーションをしてみてください。実際に現場に身を置かないと分からないことばかりでしたし、何より、子どもたちの最高の笑顔に癒され元気をたくさんもらえます。私もまた必ず訪れたいです。皆の前で話す機会も多かったため、次はダンスに加えてスピーチも練習していこうと思います。



「ディヴィーナさんはとても勇気のある子で、初対面の私の目を真っ直ぐ見てくださいました」

コミュニティ訪問の詳細はこちらから

右のQRコードからウェブサイトをご確認のうえお申込ください。受付再開により、ご訪問が増えています。現地の受け入れ状況などにより、訪問時期の変更をお願いすることがあります。予めご了承ください。



あなたもプラン・スポンサーシップを通じてチャイルドと交流しませんか？

遠い国からチャイルドを見守ってくださるスポンサーの方を募集しています。チャイルドにとっては、海外にいるスポンサーの存在が大きな励みとなり、その交流が彼らの視野や可能性を広げるきっかけになります。



コイノワさんの訪問スケジュール

11月20日(月)	日本を出発
11月21日(火)	カタル経由でルワンダへ到着
11月22日(水)	9:00 ホテルにプランの職員がお迎え 9:30-10:00 現地事務所でのオリエンテーションを実施 11:30-12:20 プランが運営する幼稚園の見学 12:30-13:40 チャイルドとその家族と対面 15:20-16:20 昼食 17:00 ホテルに戻る
11月23日(木)	ルワンダを出発
11月24日(金)	日本へ到着

一人旅ということもあって気を張って過ごしたので、今回は現地2泊3日という超弾丸の訪問でしたが、ちょうどよかった気がしています。チャイルドへの土産には色鉛筆や消しゴムを用意しました。また、現地の言葉を少し覚えて話したら現地の人たちがとても喜んでくれて、心温まる思い出となりました。

スポンサーとプラン職員の現地レポをお届け チャイルドに会ってきました！

新型コロナウイルス感染症の収束を受けて、活動国への訪問を再開しています。現地を訪れたスポンサー(※)や職員の現地レポートをご紹介します。

※「プラン・スポンサーシップ」でチャイルドと交流する支援者のことを「スポンサー」と呼んでいます。

Journey1 RWANDA

チャイルドと初めての出会い。感動に溢れた時間に

レポート
コイノワ 殊里さん(スポンサー)

2023年7月から再開した「コミュニティ訪問(※)」では、プラン・インターナショナルの活動が地域にどのような変化をもたらしているかを直接見ることができます。

ルワンダの女の子と交流している

コイノワ 殊里さんは、2023年11月、ブゲセラ活動地域を訪れました。

現地を訪れたことで、初めて気づいたことがたくさんあったと語ります。

※コミュニティ訪問は、プラン・スポンサーシップおよびオーダーメイド・プロジェクトのご支援者の皆さまが対象となります。



コイノワさん(前列右)。チャイルドのディヴィーナさん(前列右から2番目)と、その家族やコミュニティの人々と



ブゲセラ活動地域について

プランは2010年からこの地域で活動を開始。チャイルドの数は約8,500人、うち約2,000人が日本のスポンサーと交流しています。ブゲセラはルワンダ東部において、早すぎる妊娠をした女の子たちが2番目に多い地域です。そのため、2023年度は10代の若者たちを対象に、性と生殖に関する健康と権利に関する教育に重点をおいて活動しました。また、乳幼児保育と栄養改善の支援にも注力しています。

到着から感動の連続

コミュニティ訪問はチャイルドや家族との面会だけと思っていたのですが、村をあげて熱く歓迎いただき、到着した瞬間から驚きと感動の渦に飲み込まれてしまいました。何十人もの子どもや大人たちが歌や踊りで私をもてなしてくれ、思いもよらず現地の文化に触れることができました。

初めてチャイルドと会ったときのことは忘れられません。会った瞬間、抱きしめて泣いてしまうほど感動しました。彼女は私のハグを優しく受け止め、そして、一緒に踊ってくれました。その踊りはとても上手で、これは現地に来なければわからなかったことだと思えましたね。遠い国の女の子が自分の目の前にいることがただただ嬉しかったです。こ



スマホを取り出すと一緒に写りたいと、たくさん集まってきました。みんなとっても元気！

初日はプラン事務所打合せをし、翌日に車で8時間かけてカーラ活動地域へ移動。現地では出会ったチャイルドは8歳から16歳くらいで、日々の生活や将来の夢などを、口々に私たちに聞かせてくれました。保護者からは「教材や学校の設備が改善さ

Journey 3 TOGO

確実に増えている 子どもたちの 学びの機会

レポート
小泉美礼 職員



カーラ活動地域と
ソコデ活動地域について

1988年からトーゴで活動を開始。カーラ活動地域のチャイルドは約6,500人、ソコデ活動地域のチャイルドは約11,000人。日本のスポンサーと交流するチャイルドはあわせて約1,400人ほどです。2023年度、カーラでは障害がある子どもたちも学べる環境づくりや職業訓練などの活動に注力し、ソコデでは女の子の権利や安全に関する活動のほか、職業訓練や起業支援に重点をおいて活動しました。



現地で出会ったチャイルドたちと



シエムリアップ活動地域について

2002年からこの地域で活動を開始。チャイルドの数は約1,000人、うち500人以上が日本のスポンサーと交流しています。この地域では、5歳未満の子どもたちの発育不良が問題となっています。プランは2023年度、約3,600人の子どもたちを対象に栄養不良のスクリーニング検査を実施しました。また、中等教育への就学率が50%と低めであることから、教育の重要性を高め、若者が教育を受けられるよう支援するとともに、暴力などの危険な状況にある子どもたちの保護にも努めています。



「プロテクション・プラス プロジェクト」の保護者の会合。和気あいあいと楽しそう



2日目に訪問した幼稚園。カラフルな絵やクメール語が教室を彩り、明るい雰囲気

Journey 2 CAMBODIA

保護者や子どもとの 触れ合いを通じて 支援の成果を実感

レポート
西村恵子 職員

日本の夏に戻ったような暑さなのか、初日は、活動地域で実施しているいくつかのプロジェクトを視察しました。そのうちのひとつ、「プロテクション・プラスプロジェクト」は、子どもたちが暴力を受けることなく安全に過ごせるようになることを目的としています。子どもの保護に関する知識を広める役割を担っているのは、保護者の方たちです。この日は保護者むけの会合が開かれました。参加した保護者たちは、最初はリーダーの話に頷いているだけでしたが、私たちが質問するにつれて話が進んでいく様子になり、通訳が追いつかないほど賑やかに。表情や発言から、この活動がうまくいっていることを確信しました。

2日目はプラン・スポンサーシップの支援により建設された、幼稚園を訪問しました。最初は恥ずかしそうでしたが、徐々に笑顔が溢れてきました。最初は保護者の方たちです。この日は保護者むけの会合が開かれました。参加した保護者たちは、最初はリーダーの話に頷いているだけでしたが、私たちが質問するにつれて話が進んでいく様子になり、通訳が追いつかないほど賑やかに。表情や発言から、この活動がうまくいっていることを確信しました。

れ感謝している。希望としては地域に簡易保健所が欲しい」という声があがりました。足と耳に障害のある16歳の女の子は、「インクルーシブ教育の導入を進めるプランのおかげで学校に行けるようになって嬉しい」と話し、子どもたちの学ぶ機会が確実に増えていることを確認できました。次に訪問したソコデ活動地域では、3人のチャイルドにじっくり話を聞くことができました。印象的だったのは、チャイルドが「将来IT系の仕事に就きたい」と言ったときに、父親が「女の子なのだから」とたしなめたのに対して、同席していた人々が一斉に「女の子でもできるよ！」と声を上げたことです。保護者だけでなく、地域全体で彼女の成長を見守っていることを実感しました。

登校中の子どもたち



Q&A

トーゴのチャイルドに聞いてみました！

- 1 プロフィール 2 スポンサーとの交流 3 将来の夢は？

ムジバさん(女の子) 16歳



1 高校2年生。好きな科目はフランス語、地理、道徳。毎朝5時に起きて、水汲みや家事を手伝い、学校に行きます。2 スポンサーは日本人。もらった手紙は必ず家族にも見せていて、受け取ると誇らしい気持ちです。3 コンピューターやテクノロジー系の仕事に就きたい。

ジャシーさん(男の子) 15歳



1 中学3年生。美術と公民の授業が好き。週末は、父親の農業を手伝います。2 スポンサーはフランス人。母国語が同じフランス語なので手紙の交流は多く、どれも僕の宝物です。3 卒業したら、専門学校で建設の勉強をしたいと思っています。

エスターさん(女の子) 17歳



1 勉強するより生きるためのスキルを身につけたいと思い、中学校には行かずプランのサポートで機織りの見習いになりました。2 スポンサーはドイツ人。頻りに手紙のやりとりをしています。3 今年9月に、機織りの試験があり、合格すれば見習いを卒業です。

日本 本格稼働から1年を振り返る 「女の子のための居場所・相談」プロジェクト

プラン・インターナショナルは、社会や家庭から孤立し生きづらさを抱えている日本の女の子と若年女性を支援するため、「女の子のための居場所・相談」プロジェクトを実施しています^(※)。このプロジェクトは、女の子や若年女性が安心して利用できる居場所「わたカフェ」と、日本全国からアクセスできる「チャット相談」を通じ、一人ひとりのニーズに寄り添った支援を提供することを目的としています。

(※) 2020年からパイロット事業として開始、2023年1月から本格稼働し、寄付募集を開始しました



チャット相談はウェブサイトから受付



女の子のための居場所「わたカフェ」

有資格者が寄り添う 女の子のための居場所「わたカフェ」

30年間続く日本の不況は子育て世帯を直撃し、2014年の調査では子どもの6人に1人は貧困状態にあることが明らかになりました。さらにコロナ禍以降、潜在的にありながらも長らく表面化してこなかった若年女性の課題が可視化されるようになりました。現在社会には、不安定な雇用、経済的困窮だけでなく、ドメスティック・バイオレンス（DV）や若年妊娠などのジェンダーに関する問題を抱えていても、誰にも相談できず一人で苦しんでいる女の子たちが大勢います。

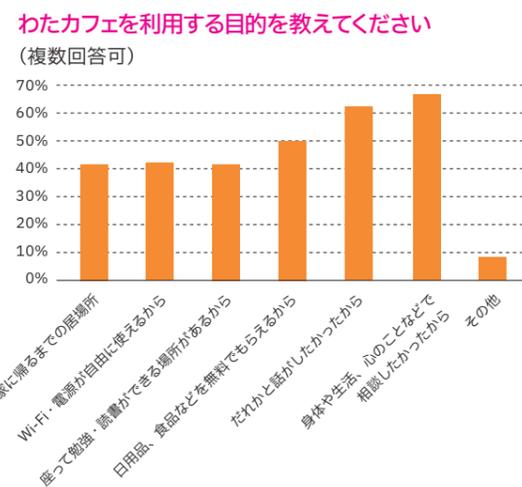
こうした状況をうけて開設した女の子のための居場所「わたカフェ」（東京都豊島区池袋）では、専門知識を備えた社会福祉士、臨床心理士、助産師が一人ひとりの声に耳を傾け寄り添います。現在、「わたカフェ」には300名以上の女の子たちが登録しています。

悩みを打ち明けるまでには時間がかかる

相談希望があっても躊躇してしまう女の子も少なくないため、「わた

カフェ」では心地よい空間を感じてもらおう工夫をしています。おやつや軽食を食べたり、携帯を見たり、学校の課題をやったり、なかにはぐっすり寝ている子もいます。誰にも何とも言われず自分のペースで過ごせる場所であること実感し、ここなら自分の気持ちを話せるかもしれないと感じたときには、はじめて自身が抱える悩みを相談しようという行動につながります。

思春期・青年期は誰かに気軽に悩みを打ち明けることが難しい年代です。人と違うことは隠さなければな



日本全国から50000件以上 「チャット相談」

らない、困っていることを誰にも言えないと考えてしまいがちです。また、家庭や学校で自分自身が置かれている状況を仕方がないことと受け入れ、ストレスをため込んでしまっている場合もあります。そのため、相談につながるまでに時間が必要で

多岐にわたる相談内容

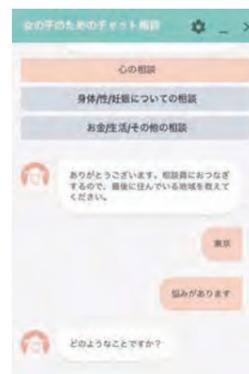
相談内容は、帰る家がないという緊急性の高いものから、経済的な問題、家庭環境、メンタルヘルスなど解決までに比較的長い時間を要するものまでさまざまです。また、「わたカフェ」では性教育にも力を入れており、助産師による個別の性教育講座も定期的に開催しています。1対1で話すことで、普段は言い出しにくいパートナーとの悩みなどを打ち明けてくれることもあります。

「女の子のためのチャット相談」は、日本全国から匿名で相談ができるので、対面よりもハードルが低く、率直な悩みが飛び込んできます。

チャット相談を始めた3年前は「死にたい（希死念慮）」という相談がとて多く寄せられました。現在は、「死にたい」の裏側にある辛さは人それぞれであり、その強さや意味が違うことを理解し、問題の背景にあるさまざまな気持ちに焦点を当てて、大切しながら毎日相談を受けています。

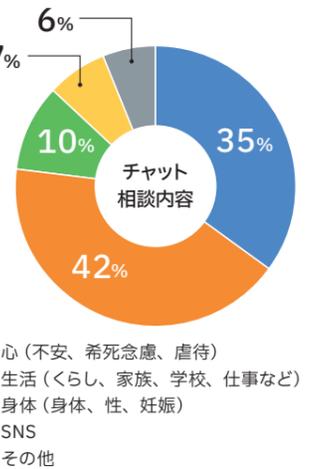
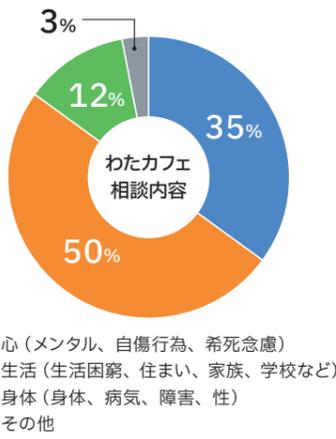
気軽に相談できるメリット

チャット相談は、どこにいても携帯電話があればできる良さがありま



チャット相談画面(イメージ)

す。自分の話をすることに慣れていない女の子でも、チャットなら自分のペースで相談できます。2020年のパイロット事業開始時から、これまで累計50000件以上の相談を受けました。ちょっと話してみたい、誰かに聞いてみたい時に利用できる気軽なツールとして今後も需要が大きいと考えています。



ガールズ・プロジェクトのご支援をお願いいたします

● 生きづらさに寄り添う
「女の子のための居場所・相談」プロジェクト



行政や民間団体とも連携し、女の子たちが安心して暮らせる社会を実現したい

解説：国内支援事業部 橋本理恵職員

「わたカフェ」やチャット相談では、社会福祉士、臨床心理士、助産師が交代で入り、相談を受けています。思春期・青年期は心も体も急激に成長し、悩むテーマも次々に変化をしていくので、多職種のスタッフがそれぞれの視点で関わるメリットがあります。

直接支援のほかに若年女性の声なき声を拾い、多くの人にその困難さを知っていただくことも大切な仕事だと考えています。2024年春からは「困難な問題を抱

える女性への支援に関する法律」が施行されます。この法律はこれまでの政策から大きく方向転換、女性を支援していくために行政と民間団体が協働をしていくことが明記されています。プランも人権が尊重され、女の子、女性たちが安心して暮らせる社会を実現するための一助になれるよう活動をしていきたいと思えます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願致します。



illustration by Noriyuki Goto



朝 食をとらないで登校する子どもが多いため、給食は朝に提供されます。この日のメニューは地域の業者から仕入れた鶏肉と、地元や学校菜園でとれた野菜を使ったスープ、そしてお米。朝からみんなでワイワイ食べると元気が出て、学校の授業にも集中できます。食後はプランが設置した給水所で自分の食器を洗います。



カンボジア 子どもたちを笑顔にする 給食ボランティア

プランは、2013年から世界食糧計画（WFP）と連携して、カンボジアの3州で学校に給食を導入し、初等教育の修了率向上につなげてきました。今期は、学校の調理室や食堂の整備、学校菜園の導入をすすめるほか、給食が確実に継続されていくように現地政府への支援にも力を入れています。学校給食に欠かすことができない給食ボランティアのストーリーをご紹介します。

給 食が終わり、授業が始まる集まります。学校菜園では、空心菜やレタスなど約20種類の野菜を栽培し、学校給食に活用するだけでなく、授業にも使われています。例えば、縦に5つ、横に3つ植えたらいくつ収穫できるかなど、菜園を使って掛け算の勉強をします。



ペ ルは、小学校給食の調理係です。娘が通っていた小学校でプランがボランティアを募集していると知り、応募しました。食材や燃料を効率的に使う調理方法や衛生管理、子どもを守るセーフガードやジェンダー平等などに関するトレーニングを受け、調理係として働きはじめてからも10年になります。

ペ ルは毎朝4時起きで学校にむかい、かまどで火を焚き、給食を作ります。「古いキッチンには壁や屋根もなく、火をおこすのも大変でした。プランが設計したかまどを設置してから、とても作業がしやすくなりました」とペルは説明します。この燃料節約型かまどは、日本のプランから「ギフト・オブ・ホープ」キャンペーンを通じて贈られたものです。登校中に子どもたちが拾ってきた枝を薪として使います。



子 どもたちが私の料理を気に入ってくれるのが本当に嬉しい。愛情が最高の食材です」と語るペル。10年間続けてきたこの活動を今後も続けたいと話します。プランは、今後3年間で現地の人々が、自分たちで学校給食を運営できるようにすることを目指し、活動していきます。



グローバル・プロジェクトのご支援をお願いいたします

● 学習意欲を高めて修了率をアップ
「地域主導型の小学校給食」プロジェクト（カンボジア）

※このプロジェクトは、国連世界食糧計画（WFP）などと共同で実施しています。



詳細はウェブサイトをご覧ください

さまざまな組織が連携して成し遂げた10年の成果

解説：プログラム部 山形 文職員



このプロジェクトが始まって10年。WFPが食材を提供し、学校やコミュニティは倉庫係、調理係を配置。プランは調理室や給水設備、トイレなどのインフラを整備するほか、学校関係者と現地行政へのトレーニングを担い、これまで500を超える学校で給食が提供されるようになりました。生徒が元気になり、出席率や修

了率が向上しただけでなく、学校菜園で野菜を育てるうちに教師も生徒も自然にジェンダー平等や水・衛生の大切さを学ぶなど、このプロジェクトはたくさんの付加価値をもたらしてきました。今後は、すべての学校が支援を卒業し、自力で食材や人材を確保して給食を継続していくことが大きな目標です。

IHG・ANAホテルズ労働組合連合会

17のホテルが一丸となって チャリティランチやバザーを開催

IHG・ANAホテルズ労働組合連合会事務局長の大森淳さん(後列左から2番目)と、組合員の皆さん



阪神淡路大震災が活動のきっかけに

IHG・ANAホテルズ労働組合連合会では、毎年2月から3月にかけて、「ボランティアアズデイ」を開催しています。これは、組合に加入している17のホテルそれぞれが、チャリティランチや献血、バザー、募金箱の設置などを通じて、地域社会に貢献するイベントです。1995年の阪神淡路大震災の際に、組合のメンバーが支援活動を行ったことをきっかけに始

まりました。2023年には約90万円の募金を集め、プラン・インターナショナルを含む10の団体に寄付を行いました。ボランティアアズデイには、組合員が自分の勤務するホテル以外を手伝いに行くことがあり、他のホテルとの交流が生まれ、ホテルの運営や雰囲気学ぶよい機会になっています。また、バザーではホテルで使用されているアメニティを中心とした販売も行うため商品を購入することで、通常お客様が利用するアメニティを自分でも体験することができ、さまざまな学びが得られます。今年で29年目を迎えますが、毎年、ボランティアアズデイを楽しみにしている組合員も多いようです。

新型コロナウイルスの感染拡大時には、チャリティランチを中止するなどの措置を講じ、感染対策を徹底しながら一部のホテルでのみの実施となりました。コロナ禍での開催には迷いもありましたが、「ボランティアアズデイを楽しみにこの1週間は頑張っただけで、実行してよかったと感じました。多くのホ

「手の届く範囲」という姿勢を大切に

ボランティアアズデイでは、会場に寄付先のNGO/NPOのチラシやポスターも置きます。これにより、会場に訪れるお客様が団体の活動に興味を持っていただける機会が増えると考えています。以前は聞き流していた情報も、手に取って読むことで頭に残るようになるのではな



バザーでは各ホテルのアメニティや食器のほか、組合員が持ち寄った未使用の商品などを販売し、寄付につなげます

いでしょいか。ボランティアアズデイを通して、支援団体の活動の認知度向上に少しでも貢献できたら嬉しいですね。また、プランを寄付先のひとつに選んだのは、ホテル業界で働く女性が多いという背景から、女性や女の子の支援により力を入れたいと考えたからです。ボランティアアズデイは、当初から、「手の届く範囲」でのボランティアであることを大切にしています。背伸びをせず、組合員同士が楽しく和気あいあいと活動することが、長期的な支援につながると考えているからです。この姿勢を今後も大切にし、プランの応援を継続していきたいと思っています。



ボランティアアズデイでは、ランチの配膳など、通常の業務とは違った仕事に挑戦することができます

支援のさまざまなカタチ

遺贈・相続財産 からのご寄付

Vol.3

支援者インタビュー

遺言書の作成は大切な終活であり いつか届けるプランへのメッセージ

Y.Kさん

地元の銀行の方に相談すると、弁護士を紹介してください、何回か話し合いを重ねて2カ月ほどで遺言書が出来上がりました。私はその第一条にプラン・インターナショナルへの遺贈を記載しました。

信頼できるプランを遺贈先に指定

プランのお付き合いは1992年からで、これまでに2人のチャイルドと交流し、その後はグローバル・プロジェクトを継続的に支援しています。遺言書を作成していたちょうど同じタイミングで「プラン・ニュース」と一緒に「PLANレガシー1%クラブ」のチラシを受け取りました。長いお付き合いのプランなら自分のお金の行先が明確に分かって安心と思

手続きが完了して思わずスキップ?

遺言書の完成後は弁護士とともに公証役場へ。ここでは役場の方が書類を一文ずつ読み上げるたびに「よろしいですか?」と尋ね、私が「はい」と答えま



インドの男の子との交流の記録



ポーランドの女の子から送られてきた写真



チャイルドとの交流記録を大切に保管されているY.Kさんにお話をうかがいました

終活としての遺言書はエネルギーがあるうちに

す。すべての確認が終わったら印鑑を押し、一通は私、もう一通は役場が保管します。30分ほどで手続きが終わり、役場を出た私は、スキップしたくなるくらい気持ちが軽くなっていました。遺言書はまさに水戸黄門の印籠のようなもの。これさえあれば、夫は相続に関しての面倒な手続きをする必要がなくなりません。しかも今後変更したいことが出てきても、私はいつでも変更できます。私もごく普通の日本人です。以前は遺言に対して「縁起でもない」「財産なんてほとんどないし」、そして「まだ早い」と思っていました。しかし、私と夫の母は今ではふたりとも百歳近くになり、認知機能が著しく低下しています。そのため入居している施設の費用を本人の口座から支払おうと思っても、本人の意思確認が取れず手続きできないのです。このようになってからでは当然、遺言書を作成することもできません。終活の考え方は人それぞれだ



PLAN MOVEMENT 始動! 女の子の未来をつくるパートナーを 募集します



イベントにご登壇くださった辻愛沙子さんと眞鍋かをりさん、パートナー企業の皆さま



第一園芸株式会社様にご提供いただいたミモザが会場を彩りました

プラン・インターナショナルは、国際女性デーの3月8日に、ジェンダー平等な社会を実現するために、ともに社会を変えていく取り組み、PLAN MOVEMENTを始動させました。

この取り組みは、機会を奪われ差別や偏見の対象になってしまいがちな国内外の女の子や女性たちが、未来にはばたくことができ

る社会の醸成にむけて、企業やメディアなどのパートナーとともに社会にムーブメントを起こすことを目的としています。

この新たな取り組みにご理解・ご賛同をいただくため、3月8日、渋谷PARCOにおいて、企業やメディアを対象としたイベント「PLAN MOVEMENT ~ジェンダー平等の実現にむけ、ともに世

界を変えていこう!」を開催しました。参加した企業の皆さまからは、「PLAN MOVEMENT は、多くの方が女の子や女性の問題に目をむけるプラットフォームになると思うので何らかの形で貢献していけたらと思う」などのコメントをいただきました。

女の子たちが直面している課題を社会に広め、社会全体に意識変容をもたらすイベントや啓発活動にご協賛いただける企業および個人事業主の方を募集します。ご関心のある方は、ぜひウェブサイト経由でお問い合わせください。

PLAN MOVEMENTの詳細はこちら



プラン・ユースグループ新メンバー募集!

プラン・ユースグループは、プランの組織運営に若者の視点を取り入れるアドバイザー(助言)活動や、国内外のジェンダー課題解決に向けたアドボカシーを進めています。メンバーは、全国から集まったユース(15~24歳の若者)です。アドバイザー活動として、理事会など組織の意思決定の場への参加のほか、国内支援事業への助言も行っています。アドボカシーでは、日本の性教育をよ

り良くするための調査・提言活動や、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する啓発活動に取り組んでいます。インスタグラムやXでも発信していますので、ぜひSNSをフォローしてください。

現在、プラン・ユースグループでは、新メンバーを募集しています。ぜひお知り合いのユースにも拡散してください。多くの皆さまのご応募をお待ちしています!



プラン・ユースグループ メンバー

応募はこちらから
応募締切: 2024年4月19日(金)



20年以上、活動に関わって 見えてきたプランの強み

今回は、P8-9でご紹介した「地域主導型の小学校給食」プロジェクト(カンボジア)のほか、ウクライナ人道危機や令和6年能登半島地震など、国内外の緊急人道支援を担当する山形職員の仕事を紹介します。

途 上国を支援したいとの思いからプランのスポンサーに、その後、翻訳ボランティアになりました。当時は大規模ODAプロジェクトを多く抱える建設会社に勤務していましたが、より深く途上国支援に関わりたいと思うようになり、プランの職員に応募したのが20年も前のことです。

いくつかの部署を経て、現在は主に緊急人道支援に関連する業務を担当しています。2011年の東日本大震災で初めて国内緊急支援に携わって以来、日本国内の緊急人道支援にも対応しています。

これまでさまざまな業務を通じ

て見えてきたプランの強みは、地域の人々や行政との連携を密にし、時間をかけて信頼関係を築いていく支援スタイルと、そこから得られた知見が世界中のスタッフに共有され活用されている点にあると思います。また、継続的にご支援くださる皆さまからのご理解やご協力もプランにとっての大きな力です。今回、能登半島地震の支援活動では、金沢市にお住まいの支援者の方々にご協力をいただく場面がありました。初めて訪れる石川県で迅速に動く必要があるなか、支援物資の保管場所の提供や調達のお手伝いなどを快く引き受

支援物資を手渡す山形職員(右)



今回紹介する人
プログラム部 山形 文 職員

けていただき、本当に助かりました。3.11の支援活動でも支援者の方から多大なご協力をいただいたことを思い出し、胸が熱くなりました。寄付以外にもできることがあれば手を差し伸べてくださる支援者の方がたくさんいることをとても心強く思っています。

山形職員のある一日(令和6年能登半島地震緊急支援対応の1日)

7:00-7:30

金沢市のホテルを出発。連携する特定非営利活動法人バルビーの方々と打合せ



7:30-8:30

支援物資の保管にご協力いただいた支援者の方のお宅に向かい、物資を引き取り

8:30-11:30

バルビーの皆さまとともに輪島市にむけて出発



11:30-13:30

輪島市内の行政や避難所を回り、聞き取りのうえ、物資を提供。災害時の子どもの心のケアに関するリーフレットも配布



13:30-15:00

ビニールハウスなど小規模の私設避難所でもニーズを聞き取り、物資を提供



15:00-19:00

雪が激しくなる前に金沢市へ戻る。被災地の多くで断水しているため、携帯トイレの持参が必須



19:00-21:00

聞き取りで新たに必要となった物資を調達。翌日の配布に備える



21:30

ホテルに戻り夕食。夜は、現地で聞き取った情報を担当者間で共有し、支援計画を再検討

プランを「広める活動」にご協力をお願いします

公益社団法人 AC ジャパンの支援によるプランの広告ポスターを掲示していただける企業、学校、団体を募集しています。また、お店やフリースペース、学園祭などのイベントでプランの活動を紹介するチラシの設置・配布にご協力いただける方も募集しております。

ポスターは、B2 (51.5 x72.8cm)、B3 (36.4x51.5cm) の2種類。チラシ



はB5 (18.2 x 25.7cm) です。ご希望の内容と枚数、送付先(住所、電話番号、お名前)をメールでご連絡ください。
Mail: library@plan-international.jp



(左) B3ポスター
(上) B5チラシ

あなたも参加しませんか?

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

プラン多摩の会

映画上映会

- 日時：4月20日(土)14時~16時30分(受付開始13:30)
- 会場：立川市子ども未来センター 201・202会議室
- 内容：映画上映会「存在のない子供たち」
上映後は感想をシェアし、問題点などについて意見交換します。年齢制限はありませんが、字幕映画ですのでご注意ください。能登半島地震緊急支援の活動状況も報告予定です。
- 参加費：1人500円
- 申し込み：不要
- 連絡先：プラン多摩の会 矢島

プラン浦和の会

国際友好フェア参加(予定)

- 日時：5月3日(金・祝)9時~16時、4日(土・祝)9時~15時
- 会場：市民の森・見沼グリーンセンター(JR宇都宮線土呂駅下車徒歩10分)
- 内容：国際友好フェア(主催：公益社団法人さいたま観光国際協会ほか)は、世界の料理や手工芸品の紹介各国の踊りや歌が披露されるステージなど、賑やかで楽しいお祭りです。プラン浦和の会ではプランのチラシを配って広報活動を行います。
- 参加費：無料
- 申し込み：不要
- 連絡先：酒井 freedom11252000@hotmail.com

Wウェブサイト フェイスブック

上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
<https://www.plan-international.jp/supporter/plankai>

- 支援者の会に関するお問い合わせ先：プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp

プラン・札幌の会

総会と職員報告会

- 日時：5月18日(土)13時~16時
- 会場：かでの2.7 110会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)
- 内容：総会&事務局職員報告会(仮)※詳細未定(併設：持ち寄りミニバザー)
- 参加費：無料
- 申し込み：不要
- 連絡先：080-4500-0525(西崎)※ショートメールまたは留守電に録音頂ければ折り返します。

プラン奈良の会

総会

- 日時：6月2日(日)13時~16時頃
- 会場：生駒市たけまるホール(予定)
- 内容：総会
- 参加費：無料
- 申し込み：不要 ※会員以外の方も参加可能です
- 連絡先：プラン・奈良の会 富山

プラン名古屋の会

愛知サマーセミナーでの講座開催

- 日時：7月中旬頃の土日祝日(時間未定)
- 会場：名古屋市内の私立大学か高等学校(未定)
- 内容：愛知サマーセミナー(主催：愛知県私立学校教員組合連合ほか)で講座開催を予定しています。詳細はプラン名古屋の会のホームページやFacebookなどでお知らせいたします。
- 参加費：無料
- 連絡先：久世
Mail: plan.nagoya.party@gmail.com
電話：080-6952-3170

「ギフト・オブ・ホープ」 子どもたちのもとに届いています!

2023年末から募集している「ギフト・オブ・ホープ」。ギフトが現地に届けられた様子をご報告いたします。

ルーマニアで避難生活を送っているウクライナの子供たちには、教科書や通学バッグを届けることができました。教育施設へのプロジェクターは、授業だけでなく、休み時間にも大活躍。子どもたちの笑顔と学びへの前向きな気持ちにもつながっています。ネパールの子供たちはギフトで贈られた「アルミ製水筒」を肩にかけて通学しています。寒い日の水筒の中身は白湯。皆さまからのギフトは子どもたちの体も温めています。皆さまのご参加に心より感謝申し上げます。



(上) プロジェクターは子どもたちの学びや遊びに大活躍(ルーマニア)
(左) 水筒を抱える女の子(ネパール)

東京マラソン2024でプランのチャリティランナーが走りました!

東京マラソン2024が3月3日(日)に開催されました。今年も国内外からプランのチャリティランナー200名以上が、「Run for Girls!」の思いを胸に東京の街を駆け抜けました。今年は、自己ベストを更新した人も続出。げんき〜ず・宇野けんたろうさんもプランのチャリティランナーとしてご参加してください。



プラン・インターナショナルは東京マラソン2024チャリティ事業の寄付先団体です
東京マラソン2024チャリティ公式ウェブサイト(チャリティページ)
<https://www.marathon.tokyo/charity/>



「沿道応援から力をもらいます」
(撮影：金井塚 太郎)

メールアドレスのご登録にご協力ください

住所不明・電話不通が増えていきます

ご寄付やご支援に関する大切なお知らせについて、確実に皆さまにお伝えできるよう、ご住所やお電話番号のほか、メールアドレスのご登録にご協力をお願いいたします。ウェブサイトのお問い合わせフォームからご登録が可能です。



登録情報の変更はこちら

プランへの寄付となる商品・サービスのご紹介

株式会社白寿生科学研究所の「親のように、我が子のように、人を想う気持ち」で誕生したママと家族を大切にする国産ナチュラルライフスタイルブランド「MY MOM (マイママ)」。

クマザサ葉エキスなど天然由来成分を配合した全身用ジェル状保湿液『マイママジェル』、ヴィーガン認証マーク取得の『マイママスープ』と国産はと麦を100%使用した『はと麦茶』を販売しています。売り上げの一部からいただいたご寄付はガールズ・プロジェクトに役立てられます。詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://mymom.jp/>



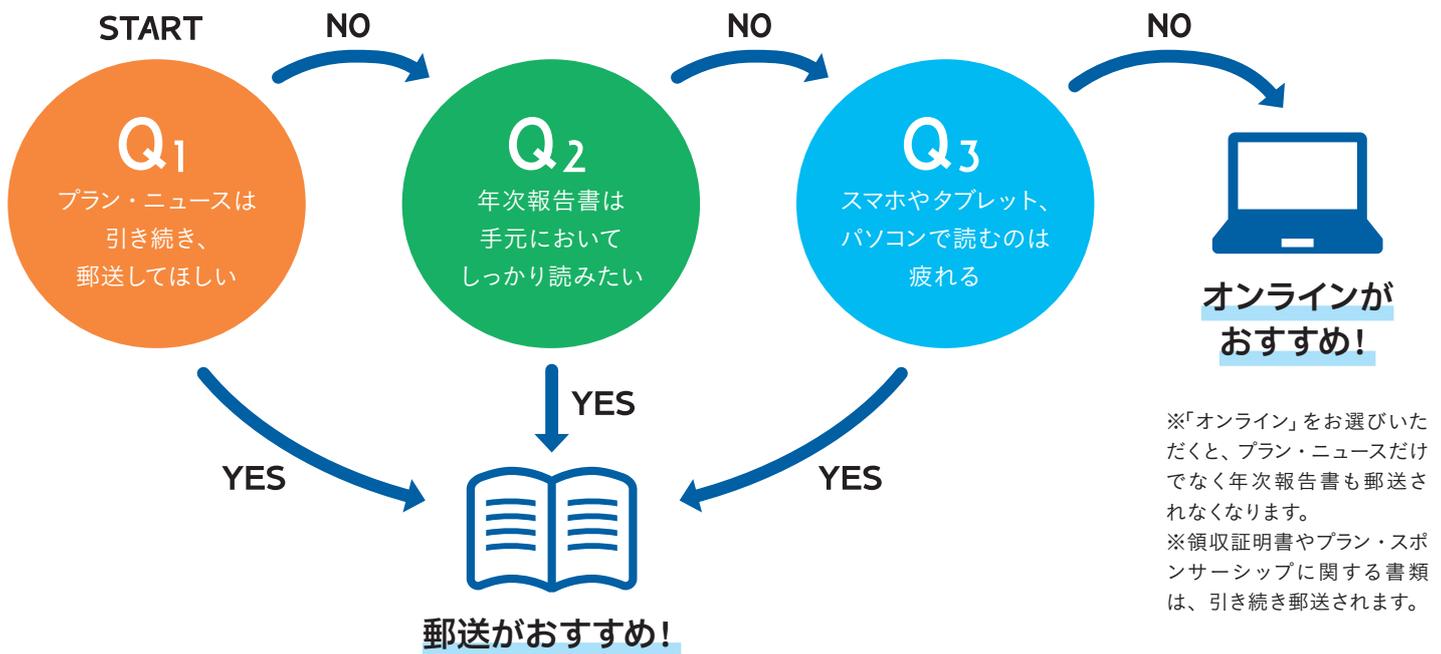
「MY MOM (マイママ)」

プラン・ニュースと年次報告書の受け取りを 郵送またはオンライン、 お好きな方をお選びいただけます



ご支援者の皆さまには、プランの活動報告の一環として機関誌「プラン・ニュース」をお送りしていますが、毎号実施しているアンケートで、「オンラインか郵送か選択できるようにしてほしい」という声を多数いただいています。ご要望にお応えし、今後はどちらかを選んでいただけるようになります。どちらにするか迷った場合には、以下のチャートをご活用ください。

あなたはどっち派?!



※「オンライン」をお選びいただくと、プラン・ニュースだけでなく年次報告書も郵送されなくなります。
※領収証明書やプラン・スポンサーシップに関する書類は、引き続き郵送されます。

郵送の場合
お手続きは不要です。引き続きプラン・ニュースをお届けします!

オンラインの場合
QRコードから、必要事項をご入力の上、変更のお手続きをお願いします。お申込は5月6日(日)まで。



プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中!



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

風船で遊ぶ楽しそうな笑顔が印象的な表紙の女の子は、カンボジアのフェンさん(10歳)。プランの支援により建設された小学校に通っています。今号では、カンボジアでのプラン・スポンサーシップの活動のほか、グローバル・プロジェクトとして実施している学校給食のプロジェクトについてもご報告しました。プランはさまざまな取り組みにより、カンボジアでの学習環境の向上と教育へのアクセス改善を目指しています

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース125号
アンケート

PLAN NEWS
2024 SPRING NO.125

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL: 03-5481-6100 FAX: 03-5481-6200
www.plan-international.jp

